



®環境省  
エコアクション21  
認証番号 0007842

# 環境経営レポート

# R3

共栄環境開発株式会社

発行日：令和4年4月20日

運用期間：令和3年1月～令和3年12月

# 目次

環境経営方針 .....	3
組織の概要 .....	4
■ 会社概要 .....	4
■ 所在地 .....	4
■ 会社組織図 .....	4
■ エコアクション21実施体制 .....	5
■ 会社沿革 .....	5
事業の概要 .....	6
■ 認証登録の対象組織、活動 .....	6
■ 関連事業所及び活動 .....	6
■ 料 金 .....	7
■ 産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表 .....	7
■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表 .....	8
■ 産業廃棄物処分業許可 取得状況表 .....	8
■ 中間処理施設 概要 .....	9
■ 中間処理の概要 .....	9
■ その他の許可 取得状況表 .....	10
■ 保有車両の種類と台数 .....	11
環境経営目標と評価 全体 .....	12
環境経営目標と評価 本社 .....	14
環境経営目標と評価 大牟田支店 .....	16
環境経営目標と評価 熊本支店 .....	18
環境経営目標と評価 久留米支店 .....	20
環境経営目標と評価 (化学物質の管理表) .....	22
環境経営目標と評価 (目標設定の考え方) .....	23
環境経営計画の取組結果とその評価 本社 .....	24
環境経営計画の取組結果とその評価 大牟田支店 .....	25
環境経営計画の取組結果とその評価 熊本支店 .....	26
環境経営計画の取組結果とその評価 久留米支店 .....	27
当社の環境経営目標とSDGsの関わり .....	28
実施した取組内容、次年度の目標及び計画 .....	29
環境負荷実績 全体 .....	30
環境負荷実績 本社 .....	32
環境負荷実績 大牟田支店 .....	34
環境負荷実績 熊本支店 .....	36
環境負荷実績 久留米支店 .....	38
環境関連法規等の遵守状況の確認及び .....	40
代表者による全体評価と見直しの結果 .....	42

# 環境経営方針

## 環境理念

私達は、事業活動において、省エネルギー及びリサイクルを推進し、地域の環境保全に寄与する企業を目指します。

## 行動指針

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減する為、二酸化炭素の排出量、エネルギーの使用量、水の使用量、廃棄物の排出量、輸送における燃料使用量の削減に努めます。
2. 特に収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組みます。
3. 受託した産業廃棄物の運搬先は、再資源化されている処分業者を優先的に選定し、リサイクル率の向上を図ります。
4. 作業機材や作業工程に、環境負荷の低減に資する工法や機材を選定し取り入れるよう努めます。
5. 省エネ、省資源に対応したグリーン製品を優先的に購入します。
6. 積極的に社会貢献活動（環境保全活動）に取り組み、地域環境保全に寄与します。
7. 事業に関連した環境に関する法規等を遵守します。
8. 環境経営方針は定期的に見直し、全社員に周知徹底、意識高揚をはかり、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。また、環境経営レポートは一般に開示します。

制定日 平成 23 年 4 月 1 日

改訂日 令和 3 年 10 月 22 日

共栄環境開発株式会社  
代表取締役 久留須 智子

# 組織の概要

## ■ 会社概要

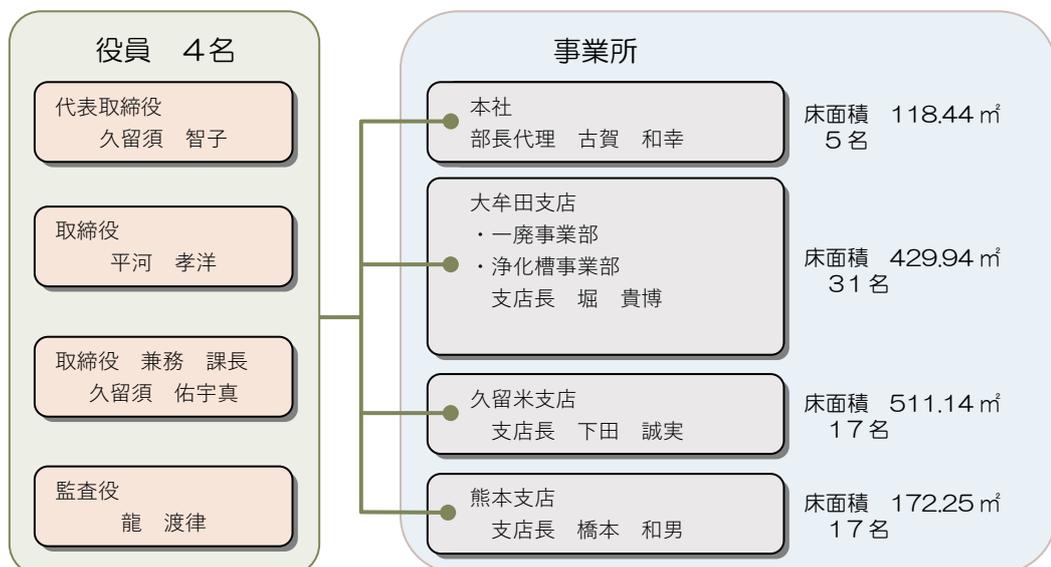
社 号 / 共栄環境開発株式会社  
代 表 者 / 代表取締役 久留須 智子  
設 立 / 昭和 38 年 2 月 7 日  
資 本 金 / 払込 4,100 万円  
売 上 高 / 1,189 百万円 (令和 3 年度)  
事業年度 / 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日  
ホームページ URL / <https://www.kyoei-ed.com>  
メールアドレス / [info@kyoei-ed.com](mailto:info@kyoei-ed.com)

## ■ 所在地

本 社 (〒836-0057) 福岡県大牟田市汐屋町 5 番地の 15  
TEL : 0944-52-6732 / FAX : 0944-54-1525  
大牟田支店 (〒836-0073) 福岡県大牟田市船津町 326-2  
TEL : 0944-55-1231 / FAX : 0944-56-9532  
久留米支店 (〒839-0806) 福岡県久留米市東合川干出町 2-1  
TEL : 0942-45-3311 / FAX : 0942-45-3317  
熊 本 支 店 (〒861-4101) 熊本県熊本市南区近見 8 丁目 8-45  
TEL : 096-358-5611 / FAX : 096-358-5118

## ■ 会社組織図

総員 74 名 総床面積 1231.77 m<sup>2</sup>



# 組織の概要

## ■ エコアクション21実施体制

環境管理責任者：部長代理 古賀 和幸 （連絡先：0944-52-6732）  
実施担当者： 別所 孝行 （連絡先： 同上 ）  
EA21委員会： 取締役 平河 孝洋  
監査役 龍 渡律  
支店長 堀 貴博  
支店長 下田 誠実  
支店長 橋本 和男  
課長 浦末 浩明  
課長 久留須 佑宇真  
EA21事務局：部長代理 古賀 和幸  
別所 孝行

## ■ 会社沿革

昭和29年 9月 創業  
昭和38年 2月 共栄衛生有限会社 設立  
昭和47年 3月 社名を共栄環境開発有限会社に変更  
昭和55年 2月 本社ビル完成に伴い現住所に移転  
昭和57年 9月 玉名営業所開設  
昭和58年 7月 筑後環境分析センターを寄付  
昭和60年 5月 資本金を1000万円に増資  
昭和60年12月 筑後環境分析センターを寄付（（財）有明環境整備公社設立）  
昭和61年 4月 熊本営業所開設  
平成 3年 5月 社名を共栄環境開発株式会社に変更  
平成 3年 7月 熊本支店を近見に新設  
平成 8年 8月 久留米支店を梅満町に新設  
平成10年11月 久留米支店を東合川干出町に新築移転  
平成11年 4月 大牟田支店を船津町に新設移転  
平成20年11月 資本金2000万円に増資  
平成24年 2月 資本金4100万円に増資

# 事業の概要

## ■ 認証登録の対象組織、活動

認証・登録組織名：共栄環境開発株式会社（福岡県大牟田市汐屋町5番地の15）

認証・登録番号：0007842

認証・登録日/2011年12月20日

更新・登録日/2021年12月20日

有効期限/2023年12月19日

（事業内容）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、浄化槽維持管理、し尿収集運搬の委託業務、建設業（土木、管、浚渫）、伏び工事（FCR工法）

## ■ 関連事業所及び活動

- 本社  
総務、経理、経営企画
- 大牟田支店  
浄化槽維持管理、排水処理施設の技術管理、関連機器の修理、管工事及び排水設備工事、し尿収集運搬業務（大牟田市からの委託業務）
- 久留米支店  
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修、FCR工法による伏びの維持管理業務（鉄道事業室）
- 熊本支店  
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修
- 船津車庫  
業務車両の駐車場のみ

**エコアクション21の取り組み範囲は、上記の全組織・全活動を対象とします。**

※ただし建設業においては、長期の建設現場をもたない業務が主であり、事務所、車両等も廃棄物処理業と共有していて、環境への負荷を分けて算出することが困難であるため、環境目標、環境活動等は全て廃棄物処理業と合わせて考えるものとし、あきらかに住み分けができる浚渫泥のみ環境負荷の記録項目に追加しています。

# 事業の概要

## ■ 料 金

業務の内容に応じてお見積りいたします。

## ■ 産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・陶磁器くず・及びコンクリートくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん	石棉含有産業廃棄物を含む
優良 → 福岡県 04000000741	R4.2.2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R11.2.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 熊本県 04305000741	R3.9.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.8.31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 佐賀県 04101000741	R3.4.14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.4.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 長崎県 04200000741	R2.11.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R9.11.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 大分県 04407000741	R3.2.28	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.2.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 宮崎県 04504000741	H29.1.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R6.1.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 鹿児島県 04608000741	H28.10.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R5.10.24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 山口県 03500000741	R3.6.16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.6.15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 広島県 03400000741	R4.2.6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岡山県 03300000741	H29.12.14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R4.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※平成 24 年 4 月 1 日の廃掃法の改定により、保有していた市の許可は全て、県の許可に統合されています。

※積替え保管施設はありません。

※左に「優良」の文字を表示している箇所は、「優良産業廃棄物処理業者認定」を取得しているという意味です。これは、次ページ（8p）も同様です。

# 事業の概要

## ■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	鉱さい	ばいじん	廃石綿等
		許可期限								
優良	福岡県 04050000741	R3.9.21	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.9.20								
優良	熊本県 04355000741	R3.5.7	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.5.6								
優良	佐賀県 04151000741	H30.1.11	●	●	●	●	●	●	●	●
		R7.1.10								
優良	長崎県 04250000741	H28.12.28	●	●	●	●	●	●	●	●
		R5.12.27								
優良	大分県 04457000741	H28.10.26	●	●	●	●	●	●	●	●
		R5.10.25								
	宮崎県 04554000741	H29.9.15	●	●	●	●	●	●	●	●
		R4.9.14								
優良	鹿児島県 04652000741	H27.4.30	●	●	●	●	●	●	●	●
		R4.4.29								
優良	山口県 03550000741	R3.12.16	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.12.15								
優良	広島県 03450000741	R4.2.6	●	●	●	●	●	●	●	●
		R11.2.5								
	岡山県 03350000741	H29.12.14	●	●	●	●	●	●	●	●
		R4.12.13								

## ■ 産業廃棄物処分業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	汚泥 (有機性)	
		許可期限		
優良	福岡県 04020000741	R4.2.2	●	移動式の汚泥脱水車を排出事業所内に搬入し、汚泥脱水中間処理を行います。 ※詳細→9P
		R11.2.1		
優良	久留米市 11220000741	R4.2.2	●	
		R11.2.1		
優良	熊本県 04325000741	R3.10.13	●	
		R10.8.31		
優良	熊本市 08123000741	H29.4.13	●	
		R6.4.12		
優良	佐賀県 04121000741	H31.4.14	●	
		R8.4.13		

# 事業の概要

## ■ 中間処理施設 概要

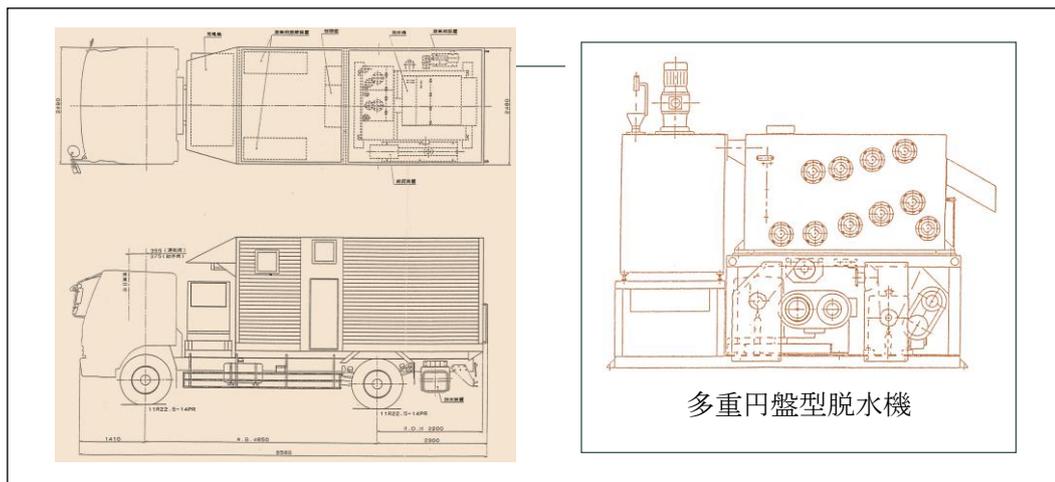
施設の種類：移動式汚泥脱水車

処理方法：多重円盤型脱水方式（株ヘリオス社製脱水機 SP-1000）

処理する廃棄物：汚泥（有機性のものに限る）

処理能力：最大 9m<sup>3</sup>/時

※上記の処理能力は計算上の数字です、実際は汚泥の性状等によって変動します。

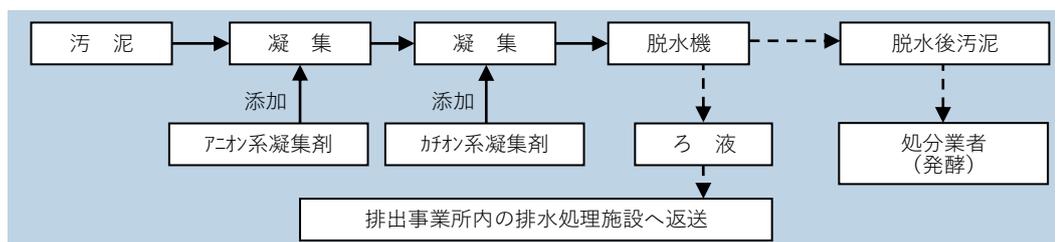


### ※環境汚染防止対策

脱水作業により発生した排水は一度脱水車の水受けタンクに受け、排出事業所内の水処理施設に返すため、水質汚染は発生しません。施設の稼働には防音型の発電機を用い、脱水機はステンレス板で被い囲む構造としているため、振動・騒音・悪臭の発生も軽微です。

## ■ 中間処理の概要

移動式の汚泥脱水車のため、排出事業所内へ施設を搬入し、排出事業所内の汚泥貯留槽等よりポンプで直接汚泥を脱水車に引き込み、脱水処理を行います。脱水後の汚泥は密閉型のフタ付コンテナに収納し、脱着装置付コンテナ専用車で発酵処理施設へ搬入し処分します。



# 事業の概要

## ■ その他の許可 取得状況表

### ● 一般廃棄物収集運搬

大牟田市	委託	事業範囲	し尿収集運搬
	許可	事業範囲	浄化槽汚泥、ディスポーザー排水処理汚泥
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R4.4.1～R6.3.31
久留米市	許可	事業範囲	燃やせるごみ、空きカン・空きビン及びペットボトル
		許可番号	第 1020 号
		許可期限	R4.4.1～R6.3.31
川棚町	限定許可	事業範囲	し尿及び浄化槽汚泥
		許可番号	第 71 号
		許可期限	R3.5.2～R5.5.1
		限定条件	ハラサンギョウ(株)への搬入に限る。
熊本市	許可	事業範囲	ごみ（事業ごみと臨時の家庭ごみ）
		許可番号	第 21R-171 号
		許可期限	R3.4.1～R5.3.31

### ● 浄化槽保守点検・清掃

大牟田市	許可	事業範囲	浄化槽清掃業務
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R3.6.1～R4.5.31
福岡県	登録	事業範囲	浄化槽保守点検業務
		登録番号	第 2 号
		登録期限	R4.4.1～R7.3.31

### ● 建設工事

国交大臣	許可	事業範囲	建設業許可（土木、管、しゅんせつ）
		許可番号	（般 - 29）第 16063 号
		許可期限	H30.2.16～R5.2.15
大牟田市	指定	事業範囲	排水設備工事
		指定番号	17
		指定期限	R3.7.10～R8.7.9

# 事業の概要

## ■ 保有車両の種類と台数

種類	台数
特殊強力吸引車	12
強力吸引車	3
脱着装置付コンテナ専用車	6
クレーン付平ボディー車	2
塵芥車	2
ダンプ車	3
Wキャブダンプ車	2
トラック	4
超高压洗浄車	1
高压洗浄車	6
給水車	5
下水道管渠内調査用 TV カメラ搭載車	2
移動式汚泥脱水車	1
バキューム車（浄化槽）	6
バキューム車（一廃）	3
ホロ付トラック	1
バン（浄化槽管理用等）	10
ワゴン車（浄化槽管理用等）	3
営業車	23
路面清掃車	2
散水車	1
原付バイク	1
合 計	99

# 環境経営目標と評価 全体

## ■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	618125.3	-0.5%	615034.7	-1.0%	611944.0	-1.5%	608853.4
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-0.5%	95545.9	-1.0%	95065.7	-1.5%	94585.6
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	154.0	±0%	154.0	±0%	154.0	±0%	154.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.8	-0.5%	225758.3	-1.0%	224623.8	-1.5%	223489.4
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.1	-0.5%	8010.8	-1.0%	7970.5	-1.5%	7930.3
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	760.9	-0.5%	757.1	-1.0%	753.3	-1.5%	749.5
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0人	591	±0人	591	±0人	591
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度実績		R2年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	618125.3	-0.5%	615034.7	639244.1	96.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-0.5%	95545.9	99297.0	96.1%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	154.0	±0%	154.0	161.9	94.9%
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.8	-0.5%	225758.3	234288.4	96.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.1	-0.5%	8010.8	8117.4	98.7%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	760.9	-0.5%	757.1	848.9	87.9%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0人	591	591	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境経営目標と評価 全体

## ■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	618125.3	-1.0%	611944.0	629506.5	97.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-1.0%	95065.7	96987.0	98.0%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	154.0	±0%	154.0	188.7	77.5%
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.77	-1.0%	224623.8	230792.5	97.3%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.06	-1.0%	7970.5	8073.2	98.7%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	760.9	-1.0%	753.3	1217.5	38.4%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0人	591	532	90.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	目標値の達成には至らなかった。しかし、達成率が97.1%と悪い数値ではないので、大きな問題はないと考える。前年度と比較すると、今年度の売上高は前年度を上回っていた。しかし、二酸化炭素排出量は減少している。今年度には、照明器具をLEDへ変更する設備投資も行った。その効果が表れている。結果を周知し、来年度には目標を達成できるよう、協力を呼び掛ける。
	▶ 電気使用量の削減	△	前年度から今年度にかけて本社ビル、大牟田支店、熊本支店の照明器具をLEDへ変更している。目標値の達成には至らなかったが、前年度と比較すると使用量が減少しており、一定の効果が表れている事が分かる。
	▶ ガス使用量の維持	△	目標値を達成できなかった。久留米支店でガス給湯器を増設した事が大きく影響している。これは職場環境改善の為の処置であり、その影響で使用量が増加してしまうのは致し方ない事である。今年度の数値を踏まえ、次年度には目標値の再設定を検討する。
	▶ 燃料使用量の削減	△	目標値を達成する事はできなかったが、前年度と比較すると燃料使用量は減少していた。売上高が前年度を上回っている事から考えると、通常であれば燃料使用量は増加する。その中で、燃料使用量が増加していないのは、外注費の増加が影響している。業務量は多かったが、外注へ出した仕事が多かった為に、結果として燃料使用量が抑えられている。燃料使用量削減の為の活動は引き続き行われている。問題はないと考える。
②	廃棄物排出量の削減	△	達成率で見ると、98.7%と目標値の達成まであと僅かというところだった。結果を周知し、次年度には目標が達成されることを期待したい。
③	水使用量の削減	×	使用量が大幅に増加している。しかし、これは久留米支店の現場作業員が使用する手洗い場の水を、上水道へ切り替えた事が大きく影響している。安全面を考慮して実施された処置であり、その事により水の使用量が増加するのは致し方ない。今年度の数値を踏まえ、次年度には目標値の再設定を検討する。
④	グリーン購入の推進	○	優先的にグリーン製品の購入が行われている。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標値の達成には至らなかった。今もなお続いている新型コロナウイルスの影響もあり、今年度も参加できるような環境イベントを見つける事ができない状況が続いている。近隣のゴミ拾い清掃活動は問題なく行われている。こちらで参加人数を増やせるよう協力を呼び掛けたい。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画に準じて実施されている。

# 環境経営目標と評価 本社

## ■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	21784.3	-0.5%	21675.4	-1.0%	21566.5	-1.5%	21457.6
	▶ 電気使用量の削減	kWh	35019.0	-0.5%	34843.9	-1.0%	34668.8	-1.5%	34493.7
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	1.0	±0%	1.0	±0%	1.0	±0%	1.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	4148.1	-0.5%	4127.3	-1.0%	4106.6	-1.5%	4085.9
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-0.5%	964.0	-1.0%	959.1	-1.5%	954.3
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	20.9	-0.5%	20.8	-1.0%	20.7	-1.5%	20.6
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	±0人	55	±0人	55
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集 運搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R2年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	21784.3	-0.5%	21675.4	21951.8	98.7%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	35019.0	-0.5%	34843.9	36567.0	95.1%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	1.0	±0%	1.0	0.0	200.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	4148.1	-0.5%	4127.3	3989.8	103.3%
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-0.5%	964.0	1071.4	88.9%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	20.9	-0.5%	20.8	-36.1	373.1%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	49	89.1%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運 搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境経営目標と評価 本社

## ■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	21784.3	-1.0%	21566.5	18593.2	113.8%
▶	電気使用量の削減	kWh	35019.0	-1.0%	34668.8	33020.0	104.8%
▶	ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	1.0	±0%	1.0	0.0	200.0%
▶	燃料使用量の削減	L	4148.1	-1.0%	4106.6	3073.4	125.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-1.0%	959.1	894.9	106.7%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	20.9	-1.0%	20.7	52.5	-53.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	51	92.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	電気使用量の削減、ガス使用量の削減、燃料使用量の削減、全ての項目で目標値を達成する事ができた。新型コロナウイルス流行下における特殊な要因も影響しているが、結果的に目標を達成できた事は評価できる。
▶	電気使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。節電活動も当然ながら行われているが、本社ビルの照明器具をLEDへ変更した事も電気使用量の削減に大きく貢献している。
▶	ガス使用量の維持	○	基本的に使用する事が無い。年間を通して使用がなかった。
▶	燃料使用量の削減	○	現在も続く新型コロナウイルスの影響で、社外に車を使用して外出する機会が大幅に減少している。その影響もあり、燃料使用量が減少していると考えられる。エコドライブなど燃料使用量削減の為の活動も引き続き行っている。
②	廃棄物排出量の削減	○	昨年は目標値を達成する事ができていなかったが、今年度は目標値を達成する事ができた。削減活動の成果が出ている。来年度以降も継続していきたい。
③	水使用量の削減	×	目標値を達成する事ができなかった。しかし、使用量だけを見れば、前年度までで見られたマイナスになるような月も無く、実際に使用している感覚としても使用量に違和感はない。その事からも今年度の使用量が、本来の使用量として妥当ではないかと考える。来年度の使用量を確認し、必要であれば目標値の再設定を検討する。(本社の水使用量は、ビル全体の使用量から一般賃貸部分の使用量を差し引いて計算している。検針日のズレからか、単月数値としては計算結果が安定しないときがある。)
④	グリーン購入の推進	○	優先的にグリーン製品の購入を行っている。今後も活動を継続する。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標値を達成する事ができなかった。しかし、会社近隣のゴミ拾い清掃活動は、毎月、欠かすことなく行われているので問題はない。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない部署

# 環境経営目標と評価 大牟田支店

## ■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	128017.3	-0.5%	127377.2	-1.0%	126737.1	-1.5%	126097.0
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-0.5%	22755.7	-1.0%	22641.3	-1.5%	22527.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-0.5%	46847.4	-1.0%	46612.0	-1.5%	46376.6
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-0.5%	5630.7	-1.0%	5602.4	-1.5%	5574.2
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	205.0	-0.5%	204.0	-1.0%	203.0	-1.5%	201.9
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	±0人	360	±0人	360
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R2年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	128017.3	-0.5%	127377.2	133655.4	95.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-0.5%	22755.7	23489.0	96.8%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.0	±0%	0.0	0.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-0.5%	46847.4	49125.2	95.1%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-0.5%	5630.7	5564.0	101.2%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	205.0	-0.5%	204.0	235.0	84.8%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	335	93.1%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境経営目標と評価 大牟田支店

## ■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	128017.3	-1.0%	126737.1	136689.8	92.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-1.0%	22641.3	22194.0	102.0%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.0	±0%	0.0	0.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-1.0%	46612.0	50409.1	91.9%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-1.0%	5602.4	5532.6	101.2%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	205.0	-1.0%	203.0	247.0	78.3%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	337	93.6%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	目標値を達成できなかった。電気使用量の削減項目では目標値を達成する事ができていたが、燃料使用量の削減項目で目標値を達成できなかった影響が大きい。
	▶ 電気使用量の削減	○	前年度の11月に照明器具をLEDに変更する工事を行っている。その影響も大きく目標値を達成する事ができた。LED照明の導入により、電灯の電気使用量が年間を通して減少している事が確認できた。
	▶ ガス使用量の維持	○	年間を通してガスの使用は無かった。
	▶ 燃料使用量の削減	△	エコドライブなど燃料削減活動は意欲的に実施されている。しかし、残念ながら目標値の達成には届かなかった。比較的、夏場の使用量が多くなっているため、車内でエアコンを使用する機会が多くなっていると考えられる。近年では、毎年、体感的にも暑い時期が長くなっているように感じる。熱中症の対策としても夏場のエアコンの使用を制限する事は難しい。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標の達成ができています。削減活動がしっかり行われている成果だと評価したい。
③	水使用量の削減	△	使用量が多く、目標値を達成する事ができなかった。漏水など、問題となるような事象は確認されていない。前年度と比較すると、月毎のばらつきはあるが、全体の使用量としてはさほど増減がなく例年並みになっている。
④	グリーン購入の推進	○	優先してグリーン製品を購入していた。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標値を達成する事ができなかった。新型コロナウイルスの影響が続いており、大人数で環境イベントに参加できない状況が続いている。近隣のゴミ拾い清掃活動は欠かさず行っている。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

# 環境経営目標と評価 熊本支店

## ■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	180983.4	-0.5%	180078.5	-1.0%	179173.6	-1.5%	178268.6
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-0.5%	17465.2	-1.0%	17377.5	-1.5%	17289.7
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	149.8	±0%	149.8	±0%	149.8	±0%	149.8
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-0.5%	67039.0	-1.0%	66702.1	-1.5%	66365.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.1	-0.5%	868.7	-1.0%	864.3	-1.5%	860.0
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	359.0	-0.5%	357.2	-1.0%	355.4	-1.5%	353.6
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	±0人	66	±0人	66
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R2年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	180983.4	-0.5%	180078.5	224853.4	75.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-0.5%	17465.2	17580.0	99.3%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	149.8	±0%	149.8	157.9	94.6%
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-0.5%	67039.0	84055.3	74.6%
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.06	-0.5%	868.7	842.0	103.1%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	359.0	-0.5%	357.2	427.0	80.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	67	101.5%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境経営目標と評価 熊本支店

## ■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度	R3年度	
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	180983.4	-1.0%	179173.6	202021.6	87.2%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-1.0%	17377.5	19225.0	89.4%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	149.8	±0%	149.8	155.9	95.9%
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-1.0%	66702.1	75135.0	87.4%
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.1	-1.0%	864.3	940.0	91.2%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	359.0	-1.0%	355.4	457.0	71.4%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	66	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	今年度は前年度に比べ、売上高が大きかった事と、従業員の増員も行っている。その影響が数値にも表れていて、二酸化炭素排出量の削減目標値を達成できていない。内容の項目を個別に見ても、電気使用量、ガス使用量、燃料使用量の全て項目で目標値を達成できなかった。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標値を達成する事はできなかったが、電気使用量削減の為に節電活動は行われている。通年で多い訳ではなく、増える月のピーク量が増加している事から、業務量と従業員が増加した影響が出ていると考えられる。
	▶ ガス使用量の維持	△	目標値の達成こそできていないが、使用量の維持が目的なため、今年度の使用量については許容範囲内だと考える。
	▶ 燃料使用量の削減	△	売上高からも今年度は前年度に比べ業務量が多かったことが分かる。弊社では業務量が増加すると燃料使用量も多くなる関係にある。今年度の燃料使用量が増加しているのは、業務量が多かった事が要因になっている。
②	廃棄物排出量の削減	△	目標を達成する事が出来なかった。目標値まで大きな差はなので、結果を周知する事で、削減への意識を高め、来年度には目標を達成したい。
③	水使用量の削減	△	前年度と比較して使用量が増加している月が多く、目標値を達成する事ができなかった。業務の中で水を使用する機会も多いため、水を使用する現場が多かった事が影響していると考えられる。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されている。
⑤	グリーン活動への参加	○	目標を達成することができている。忙しい中でも積極的に取り組まれていた。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。

# 環境経営目標と評価 久留米支店

## ■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	287340.3	-0.5%	285903.6	-1.0%	284466.9	-1.5%	283030.2
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-0.5%	20481.1	-1.0%	20378.2	-1.5%	20275.2
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	3.2	±0%	3.2	±0%	3.2	±0%	3.2
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-0.5%	107744.6	-1.0%	107203.1	-1.5%	106661.7
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-0.5%	547.4	-1.0%	544.6	-1.5%	541.9
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	176.0	-0.5%	175.1	-1.0%	174.2	-1.5%	173.4
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	±0人	110	±0人	110
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R2年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	287340.3	-0.5%	285903.6	258783.5	109.5%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-0.5%	20481.1	21661.0	94.2%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	3.2	±0%	3.2	4.0	75.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-0.5%	107744.6	97118.0	109.9%
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-0.5%	547.4	640.1	83.1%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	176.0	-0.5%	175.1	223.0	72.7%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	93	84.5%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境経営目標と評価 久留米支店

## ■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	287340.3	-1.0%	284466.9	272201.9	104.3%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-1.0%	20378.2	22548.0	89.4%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	3.2	±0%	3.2	32.8	-825.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-1.0%	107203.1	102175.0	104.7%
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-1.0%	544.6	705.8	70.4%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	176.0	-1.0%	174.2	461.0	-64.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	78	70.9%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標値を達成する事ができた。電気使用量とガス使用量では目標値を達成できていないが、燃料使用量の削減項目が余裕のある形で目標値を達成している事で、総合した二酸化炭素排出量の削減目標を達成する事ができた。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標の達成には至らなかった。しかし、前年度と比較すると、1月～8月までの累計では数値が下回っていて、冷房を使用する機会の多い8月でも使用量が大きく下回っていた。9月～12月については、使用量は増加しているが、異常という程でもなく、許容範囲内なので特に問題はない。
	▶ ガス使用量の維持	×	前年度と比較すると使用量が大幅に増加している。これは現場作業員の手洗い場に給湯器を設置した事が影響している。これについては、職場環境の改善の為に行われた措置であり、無駄に使用しているという訳ではない。福利厚生の一環として当然の事であり、問題はないと考える。来年度の目標については、今年度の使用量を基準として新たに目標値を設定する。
	▶ 燃料使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。今年度は売上が大きく、通常であれば燃料使用量も多くなる。その状況でも目標値を達成できているのは、削減活動の効果ができていると評価できる。しかし、外注費が前年度よりも多く、その事が影響している。
②	廃棄物排出量の削減	△	目標値を達成する事ができなかった。削減活動は問題なく継続されている。来年度は目標が達成される事を期待したい。
③	水使用量の削減	×	現場作業員が使用する手洗い場の水を井戸水から上水道に切り替えている。その影響で使用量が大きく増加している。安全面を考慮した上での対策であり、その事で使用量が増加する事は致し方ないと考える。今年度の使用量を基準として、来年度には新たに目標値を設定する。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されていた。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標値を達成できなかった。業務量との兼ね合いもあるので、難しいところではあるが、結果を周知する事で、今以上に意欲的に取り組んでくれることを期待したい。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

# 環境経営目標と評価（化学物質の管理表）

## ■ 補足 化学物質の管理表

年度	種別	化学物質の種類または薬品名	単位	年間購入量
R3年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	10.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	430.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
		東ソー)フレック苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90 (375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
		水処理剤 XM-90 (100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,025.0
		水処理剤 XS-90H (15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
		グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0
R2年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	40.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	540.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	20.0
		東ソー)フレック苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90 (375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	975.0
		水処理剤 XM-90 (100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,025.0
		水処理剤 XS-90H (15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
		グリスノン【グリス除去剤】	kg	40.0
R1年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	20.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	540.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	24.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	24.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	24.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
		東ソー)フレック苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90 (375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
		水処理剤 XM-90 (100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
		水処理剤 XS-90H (15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
		グリスノン【グリス除去剤】	kg	0.0

化学物質購入量

# 環境経営目標と評価（目標設定の考え方）

## ■ 補足 環境経営目標の設定に関する考え方

下記の考え方を取りまとめ、これに従って環境目標を設定した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。ただし、燃料使用量が業績向上に伴って増加している場合には、二酸化炭素排出量にも大きく影響する。その場合は、電気使用量が削減できていれば評価に値すると考える。
	▶ 電気使用量の削減	kWh	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。削減の対策として、遮熱フィルムの貼付け、エアコンの取替え、蛍光灯の LED 化なども合わせて検討する。
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	削減するといふほど使用しているものでも無い上、用途（稀にお茶を煮出す、従業員用のシャワー利用）として、意図的に削減できるものでもない。毎年、同量を維持することを目標とする。
	▶ 燃料使用量の削減	L	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。主にエコドライブの実施。低燃費車の導入や、過積載防止という取り組みも燃料使用量の削減に影響するが、それについては以下の項目⑦及び⑧の目標として取り組む。 ただし、業務の増減によって左右されるため、実績評価にあたっては、その年の業績と比べて評価しなければならない。業績が向上した年は、燃料使用量が増えて当然である。また、エンジンを利用して機械を稼働させる吸引車が殆どであり、走行距離と給油量から燃費を計算できるものではないため、燃費による評価は採用しない。
②	廃棄物排出量の削減	kg	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。
④	グリーン購入の推進	品目数	数値目標は設定せず、優先的に購入する事を推進する。現場資材については品質、性能を優先するため、こちらから指示することはできない。基本的に、事務用品及び福利厚生品を対象として取り組む。
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	R1 年度時点で大部分の従業員が活動に参加している。今以上に参加人数を増やす事は難しい為、現状の維持を目指す。
⑥	化学物質の適正管理	—	適正管理の実施を目標とする。適正管理の意味するところは、「①購入量を記録する」「②化学薬品を購入した場合は MSDS を取得する」「③購入量と MSDS 情報から、PRTR 法に該当する有害物質の量を記録する」ということ。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	収集運搬においては、過積載の防止を目標とし、毎年5月と11月を過積載防止月間と設定して取り組みの状況を確認する。 処分（中間処理）においては、脱水後の汚泥を再資源化（堆肥化、発酵）の処分場へ搬入することを目指す。この結果については、「環境への負荷の状況」に記載する量で確認できる。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	建設業と言っても、建築、解体、大規模な工事等を行っているわけではない。施工時に環境への配慮として実施すべき項目を設定し、それが取り組まれているかどうかで評価する。

# 環境経営計画の取組結果とその評価 本社

## 本 社

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	① 二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減) ▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減) ▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持) ▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
		1	昼休み中は消灯する。	○	消し忘れもなく実施されていた。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	全員が意識して実施する事ができている。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	最も寒くなる時期には、若干設定温度が高くなっている日もあったが、無理のない範囲で設定温度の調整ができていた。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月の大掃除の際に実施している。
		1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されている。
		1	エコドライブを実施する。	○	実施されている。エコドライブについて復習する時間を作り、エコドライブの方法を改めて再確認した。
2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	乗車する際の確認を徹底している。		
3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前にルートを確認し、最短距離で走行できるようにしている。		
②	② 廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	ゴミを出す前に計測し、確実に記録されている。
		2	分別を徹底する。	○	意識が向上している。各々が分別について自主的に調べる事もある。
③	③ 水使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施されている。普段から意識して節水に取り組む事ができている。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	確実に確認することができている。
④	④ グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先的に購入している。
⑤	⑤ グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	50	当番表を作成し、計画的に実施している。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	1	弊社が所属する組合が実施した近隣にある公園の清掃活動に1名が参加した。
⑥	⑥ 化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	⑦ 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	—	該当しない部署
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	—	該当しない部署
⑧	⑧ 自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	—	該当しない部署
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	—	該当しない部署
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	—	該当しない部署

# 環境経営計画の取組結果とその評価 大牟田支店

## 大牟田支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	昼休み中は消灯する。	○	消し忘れもなく習慣として出来ています。継続して下さい。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	こまめに消灯する事が習慣化されています。継続して下さい。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	出来ています。温度管理をしてください。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に実施しました。
	▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	実施出来ています。継続して下さい。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	エコドライブを実施する。	○	日頃から意識してエコドライブを実施出来ています。継続して下さい。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	始業前に確認しています。継続して下さい。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に最短距離になるよう計画して業務を行うようにしています。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施出来ています。今後も忘れないよう確実にお願いします。
		2	分別を徹底する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
③	水使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施出来ています。意識して取り組まれていると感じます。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	漏れもなく検針票の確認が出来ています。今後も継続して下さい。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	334	積極的に実施されています。今後も継続される事を期待しています。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	3	近隣の地域で開催された環境イベントに参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	常に意識して取り組む事が出来ています。今後も徹底してください。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	実施出来ています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	実施出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	実施出来ています。

# 環境経営計画の取組結果とその評価 熊本支店

## 熊本支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	昼休み中は消灯する。	○	実施されている。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	実施されている。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	適正な温度に設定されていた。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に清掃を実施している。
	▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されている。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	エコドライブを実施する。	○	十分な車間距離をとるなど、意識して実施できている。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	規定量になっている事を確認している。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	最短距離を走行できるよう、事前に道路情報を確認して、計画できていた。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	確実に実施されている。
		2	分別を徹底する。	○	プラゴミ等もきちんと分別されていた。
③	水使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	洗車をする際に流量を調整するなど、工夫して節水されていた。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施されている。漏水等は発生していない。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先して購入する事ができている。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	66	業務の忙しい中でも実施されている。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	0	参加できる環境イベントを見つけることができなかった。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	事前に比重を計算し、実施されている。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	再資源化を行っている処理場へ委託できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数で稼働できている。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	作業状況を適切に把握し、車両台数と人員を調整して最短工事になるよう計画できていた。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	作業後に後片付け、清掃を行い、周辺環境を汚染しないよう配慮できている。

# 環境経営計画の取組結果とその評価 久留米支店

## 久留米支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	① 二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減) ▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減) ▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持) ▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
		1	昼休み中は消灯する。	○	たまに消し忘れがあります。確実に実施できるよう意識してください。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	確実にできるよう努力してください。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	推奨されている温度に設定されています。無理のない範囲で続けてください。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に実施していました。
		1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	出来ています。
		1	エコドライブを実施する。	○	意識して取り組んでいます。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	△	必ず確認できるよう意識してください。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	実施されています。
		②	② 廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。
2	分別を徹底する。			○	きちんと分別されています。
③	③ 水使用量の削減 (R1年度実績より1.0%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	意識して節水に取り組んでいます。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	毎回、必ず検針票を確認できています。
④	④ グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	出来ています。
⑤	⑤ グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	78	業務が忙しい中でも、実施されました。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	0	参加できる環境イベントを見つけることができませんでした。
⑥	⑥ 化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	⑦ 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	重点的に取り組んでいます。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	全て再資源化を行う処分場へ委託するようにしています。
⑧	⑧ 自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	出来ています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	よく出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	よく出来ています。

# 当社の環境経営目標とSDGsの関わり

## ・SDGsに關係する当社の環境経営目標一覽表

No.	項目	実施内容	關係するSDGs17の目標のアイコン
①	二酸化炭素排出量の削減	昼休み中は消灯する。	 
		人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	
		エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
		エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
▶	電気使用量の削減	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
		エアコンの使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
▶	ガス使用量の維持	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	
▶	燃料使用量の削減	エコドライブを実施する。	 
		始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	
		運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	
②	廃棄物排出量の削減	ゴミの排出重量をかみならず記録する。	 
		分別を徹底する。	
③	水使用量の削減	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	
		水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	
④	グリーン購入の推進	製品購入にあたっては、可能な限りグリーン製品を購入する。	
⑤	グリーン活動への参加	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	
		行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	
⑥	化学物質の適正管理	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	 
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	(収集運搬)過積載を防止する。	
		(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	
		最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	
		周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	

## 実施した取組内容、次年度の目標及び計画

### ■ 環境経営計画に基づき実施した取組内容（一部）

- 営業車は、基本的にプリウスやアクアなどのハイブリッド車か低燃費車を購入している。
- 社内のプリンタ複合機は、省電力（スリープ）モード付きで、人感センサーで起動するタイプのものを購入している。（富士ゼロックス製）
- 事務所内の蛍光灯を、LED 照明へ変更している。
- 夏はクールビズ、冬はウォームビズを推奨している。
- 作業員の制服は、夏服も冬服もグリーン製品を使用している。
- 室温管理のために、室温計を設置している。
- 重要書類の処分は、クロネコヤマトの「機密文書リサイクルサービス（溶解処分）」を利用している。

### ■ 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和 1 年度の実績値を規定値として、令和 2 年度から令和 4 年度までの 3 カ年計画を作成している。次年度についてもこの 3 カ年計画を引き続き継続する。久留米支店で設備の変更があり、ガス使用量と水道使用量が大幅に増加している。この二つの項目については、今年度の実績を元に目標値を見直す。

# 環境負荷実績 全体

## 全体

### 1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比
売上高	千円	1,075,820	1,083,831	1,189,107	109.7%
従業員	人	71	73	74	101.4%
床面積	m <sup>2</sup>	1231.77	1231.77	1231.77	100.0%

### 2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	618668.5	639819.0	630176.5	98%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	3786.7	4393.4	3104.5	71%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	7.5	11.6	5.5	47%			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	1240.8	1417.9	1326.9	94%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	1240.8	1417.9	1326.9	94%			○	
	中間処理後の産廃の処分量	t	198.5	208.6	192.4	92%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	198.5	208.6	192.4	92%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	9926.9	9389.9	8940.5	95%			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	1906.5	2159.8	1946.8	90%			○
		単純焼却	kg	1314.8	1404.8	1563.9	111%			○
		最終処分	kg	9.8	12.9	12.5	97%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4820.0	4540.0	4550.0	100%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	8051.1	8117.4	8073.2	99%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	205.0	235.0	247.0	105%			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	555.9	613.9	970.5	158%			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	760.9	848.9	1217.5	143%	○			
	BOD排出量	g	1558.0	1786.0	1877.2	105%			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	760.9	848.9	1217.5	143%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	943935.6	976089.5	953382.2	98%	○			
	化石燃料	軽油	MJ	7221663.0	7618938.8	7500761.8	98%			○
		ガソリン	MJ	1215451.3	1183068.1	1157947.5	98%	○		
		灯油	MJ	99653.3	23744.9	35628.7	150%	○		
		プロパンガス	MJ	15147.0	16028.1	18681.3	117%	○		
		都市ガス	MJ	45.0	0.0	0.0	—	○		
新エネルギー	—	0.0	0.0	0.0	—			○		
その他	—	0.0	0.0	0.0	—			○		
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	829.0	757.0	738.5	98%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—		
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	990.0	1030.0	1100.0	107%			○	
	▶ うち再資源化	t	990.0	1030.0	1100.0	107%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

# 環境負荷実績

## ② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		72.2	54.6	68.9	
	汚泥		3257.5	3763.1	2601.7	
	廃油		7.5	1.2	4.7	
	廃酸		0.0	0.0	0.6	
	廃アルカリ		3.1	1.8	73.6	
	廃プラスチック類		3.1	3.3	3.7	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	8.8	8.8	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		368.4	540.2	301.2	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.4	4.9	4.9	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		5.1	0.0	0.1	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		4.5	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		65.0	15.4	36.3	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
				0.0	0.0	0.0
	収集運搬量 合計			3786.7	4393.4	3104.5
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.2	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	1.5	
	特管燃え殻		7.3	7.8	4.0	
	特管汚泥		0.0	3.8	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
				0.0	0.0	0.0
収集運搬量 合計			7.5	11.6	5.5	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	1240.8	1417.9	1326.9
		有機性汚泥	脱水	1240.8	1417.9	1326.9
		再資源化等量 小計		1240.8	1417.9	1326.9
中間処理量 合計			1240.8	1417.9	1326.9	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
				0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	198.5	208.6	192.4
				0.0	0.0	0.0
中間処理後処分量 合計			198.5	208.6	192.4	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		9926.9	9389.9	8940.5

# 環境負荷実績 本社

## 本 社

### 1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比
売上高	千円	9,246	16,607	8,430	50.8%
従業員	人	8	10	10	100%
床面積	m <sup>2</sup>	118.44	118.44	118.44	100%

### 2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	21784.3	21951.8	18593.2	85%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化等量	t	—	—	—	—			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化等量	t	—	—	—	—	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	959.0	1058.5	882.4	83%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	9.8	12.9	12.5	97%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	968.8	1071.4	894.9	84%	○		
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	20.9	-36.1	52.5	-146%			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	20.9	-36.1	52.5	-146%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	20.9	-36.1	52.5	-146%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	344236.8	359453.6	324586.6	90%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	0.0	0.0	0.0	—			○
		ガソリン	MJ	143523.6	138048.1	106337.9	77%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		都市ガス	MJ	45.0	0.0	0.0	—	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	236.0	236.5	200.0	85%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化	t	—	—	—	—			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

### <産業廃棄物処理量について>

本社は産業廃棄物収集運搬及び処分を行う部署ではない為

実績はありません

# 環境負荷実績 大牟田支店

## 大牟田支店

### 1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比
売上高	千円	347,922	370,678	326,449	88.1%
従業員	人	30	31	31	100%
床面積	m <sup>2</sup>	429.94	429.94	429.94	100%

### 2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	128017.3	133655.4	136689.8	102%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	300.3	615.4	58.8	10%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.0	0.0	0.0	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	369.6	443.3	149.6	34%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	369.6	443.3	149.6	34%			○	
	中間処理後の産廃の処分量	t	66.0	78.1	26.4	34%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	66.0	78.1	26.4	34%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	9926.9	9389.9	8940.5	95%			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	839.0	1024.0	982.6	96%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4820.0	4540.0	4550.0	100%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	5659.0	5564.0	5532.6	99%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	205.0	235.0	247.0	105%			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	205.0	235.0	247.0	105%	○			
	BOD排出量	g	1558.0	1786.0	1877.2	105%			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	205.0	235.0	247.0	105%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	224812.1	230896.9	218167.0	94%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	1359377.6	1445391.7	1508866.8	104%			○
		ガソリン	MJ	397796.2	390556.5	377486.0	97%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		プロパンガス	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	193.0	178.5	172.5	97%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化	t	—	—	—	—			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

# 環境負荷実績 大牟田支店

## ② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		0.0	7.5	0.0	
	汚泥		298.3	607.0	58.0	
	廃油		2.0	0.9	0.8	
	廃酸		0.0	0.0	0.0	
	廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	廃プラスチック類		0.0	0.0	0.0	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		0.0	0.0	0.0	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.0	0.0	0.0	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.0	0.0	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			300.3	615.4	58.8
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	特管燃え殻		0.0	0.0	0.0	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			0.0	0.0	0.0	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	369.6	443.3	149.6
		有機性汚泥	脱水	369.6	443.3	149.6
		再資源化等量 小計		369.6	443.3	149.6
中間処理量 合計			369.6	443.3	149.6	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	66.0	78.1	26.4
中間処理後処分量 合計			66.0	78.1	26.4	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		9926.9	9389.9	8940.5

# 環境負荷実績 熊本支店

## 熊本支店

### 1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比
売上高	千円	285,485	355,419	434,098	122.1%
従業員	人	15	15	17	113%
床面積	m <sup>2</sup>	172.25	172.25	172.25	100%

### 2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	181515.3	225414.0	202575.1	90%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	1206.1	1987.9	981.3	49%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	7.3	11.6	5.5	47%			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	693.0	621.5	858.3	138%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	693.0	621.5	858.3	138%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	92.9	78.8	119.7	152%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	92.9	78.8	119.7	152%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	108.4	77.3	81.9	106%			○
		単純焼却	kg	764.7	764.7	858.1	112%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	873.1	842.0	940.0	112%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	359.0	427.0	457.0	107%			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	359.0	427.0	457.0	107%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	359.0	427.0	457.0	107%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	172546.0	172811.4	188981.8	109%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	2255708.9	2927463.9	2588886.2	88%			○
		ガソリン	MJ	236822.1	247048.5	246190.8	100%	○		
		灯油	MJ	54365.5	10276.0	9094.6	89%	○		
		プロパンガス	MJ	14830.2	15632.1	15434.1	99%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	213.0	210.0	211.0	100%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	600.0	610.0	650.0	107%			○	
	▶ うち再資源化	t	600.0	610.0	650.0	107%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

# 環境負荷実績 熊本支店

## ② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		61.2	32.5	34.8	
	汚泥		1035.9	1643.4	860.5	
	廃油		0.0	0.0	0.8	
	廃酸		0.0	0.0	0.0	
	廃アルカリ		2.6	1.8	2.0	
	廃プラスチック類		0.0	0.5	0.0	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		101.9	309.3	83.2	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.0	0.4	0.0	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.0	0.0	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		4.5	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			1206.1	1987.9	981.3
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	1.5	
	特管燃え殻		7.3	7.8	4.0	
	特管汚泥		0.0	3.8	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			7.3	11.6	5.5	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	693.0	621.5	858.3
		有機性汚泥	脱水	693.0	621.5	858.3
		再資源化等量 小計		693.0	621.5	858.3
中間処理量 合計			693.0	621.5	858.3	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし	0.0	0.0	0.0	
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	92.9	78.8	119.7
中間処理後処分量 合計			92.9	78.8	119.7	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

# 環境負荷実績 久留米支店

## 久留米支店

### 1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比
売上高	千円	433,175	341,127	420,127	123%
従業員	人	17	17	17	100%
床面積	m <sup>2</sup>	511.14	511.14	511.14	100%

### 2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R1年	R2年	R3年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	287351.7	258797.7	272318.4	105%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	2280.3	1790.1	2064.5	115%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.2	0.0	0.0	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	178.2	353.1	319.0	90%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	178.2	353.1	319.0	90%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	39.6	51.7	46.2	89%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	39.6	51.7	46.2	89%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		単純焼却	kg	550.1	640.1	705.8	110%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	550.1	640.1	705.8	110%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	176.0	223.0	461.0	207%			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	176.0	223.0	461.0	207%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	176.0	223.0	461.0	207%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	202340.7	212927.6	221646.8	104%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	3606576.6	3246083.2	3403008.8	105%			○
		ガソリン	MJ	437309.4	407415.0	427932.8	105%	○		
		灯油	MJ	45287.8	13468.9	26534.1	197%	○		
		プロパンガス	MJ	316.8	396.0	3247.2	820%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	187.0	132.0	155.0	117%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	390.0	420.0	450.0	107%			○	
	▶ うち再資源化	t	390.0	420.0	450.0	107%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

# 環境負荷実績 久留米支店

## ② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		11.0	14.7	34.1	
	汚泥		1923.4	1512.7	1683.2	
	廃油		5.5	0.3	3.2	
	廃酸		0.0	0.0	0.6	
	廃アルカリ		0.5	0.0	71.6	
	廃プラスチック類		3.1	2.8	3.6	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	8.8	8.8	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		266.5	230.9	218.1	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.4	4.5	4.9	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		5.1	0.0	0.1	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		65.0	15.4	36.3	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			2280.3	1790.1	2064.5	
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.2	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	特管燃え殻		0.0	0.0	0.0	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			0.2	0.0	0.0	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	178.2	353.1	319.0
		有機性汚泥	脱水	178.2	353.1	319.0
		再資源化等量 小計		178.2	353.1	319.0
中間処理量 合計			178.2	353.1	319.0	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし	0.0	0.0	0.0	
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	39.6	51.7	46.2
中間処理後処分量 合計			39.6	51.7	46.2	

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R1年	R2年	R3年
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

# 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

## ■ 確認を実施した環境関連法規

法令	対象施設・業種	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業	✓
	一般廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物の処理	✓
	特別管理産業廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物管理票	✓
	雑則	✓
	産業廃棄物処理業 (収集運搬、処分)	✓
	特別管理産業廃棄物処理業 (収集運搬)	✓
	産業廃棄物処理施設	✓
福岡県廃棄物の処理及び清掃に関する法律 施行細則 (条例)	実績報告書の提出	✓
建設工事に係る資源の再資源化等に関する 法律	建設業	✓
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する 法律	作業車、営業車	✓
水質汚濁防止法	機械潤滑油の流出防止	✓
フロン排出抑制法	定格出力が 7.5kW 未満の業務用の エアコン等	✓
自動車リサイクル法	廃車時	✓
家電リサイクル法	家電の廃棄時	✓
小型家電リサイクル法	小型家電の廃棄時	✓
道路交通法	運搬車両、社用車	✓
浄化槽法 (大牟田市浄化槽法施行細則) (大牟田市浄化槽保守点検業者の登録に関 する条例)	浄化槽清掃業、保守点検業	✓
毒物及び劇物取締法	衛生設備の詰まり補修等	✓
上記に関する遵守チェック実施日	R3 年 12 月 30 日	

# 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

## ■ 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

評価コメント
リストに記載した環境関連法規等について、書類の保管状況、遵守事項の実施状況、禁止事項の遵守状況等をチェックしました。 行政指導は受けておりません。

## ■ 環境関連法規等の内容が最新の状態であるかの確認

最新の状態であるかの確認実施日	情報更新・追加等の有無
H24年12月10日	無し
H25年12月27日	有り
H27年9月19日	無し
H28年10月15日	有り
H29年10月6日	有り
H30年10月9日	有り
R1年10月7日	無し
R2年10月8日	無し
R3年10月7日	無し

# 代表者による全体評価と見直しの結果

## ■ 全体評価

### ● 環境への取り組みは適切に実施されているか

環境目標の達成状況では、目標値を達成できていない項目が多く見受けられます。しかし、達成率だけを見れば数値が90%以上になっている項目が多く、目標値の達成はできていないものの、結果としてはそれほど悪くないように思います。当社の事業では、燃料使用量など、業務量が多くなると、それに伴い使用量が多くなる項目があります。ここ数年、業績が右肩上がり推移している事を考えると、そのような項目で使用量が多くなってしまふ事は致し方ないと感じています。当社がエコアクション21の取り組みを始めて、今年度で10年が経ちました。今後も取り組みが適切に実施されていく事で、全社員の環境への取り組みに対する意識が向上し、新たな取り組みの案へと繋がっていく事を期待しています。

### ● 環境経営システムが有効に機能しているか

担当者からの報告を受け、環境経営システムが有効に機能している事が確認できました。環境経営計画に沿って、社員全員が決められたルールに基づき、行動する事ができています。当社では、エコアクション21の取り組みを始めて10年が経ちました。取り組みを続けていく中で、目標の明確化、取り組みの結果を評価する方法も確立されてきていると感じます。今後もPDCAサイクルを上手く活用しながら、より良い活動を続けられるよう、取り組みを続けていきましょう。

## ■ 見直すべき点

### ● 環境経営方針

変更の必要性：無し

### ● 環境経営目標・環境経営計画

変更の必要性：有り

久留米支店で職場環境改善の為、設備の改良と増設を行っています。その影響で、ガス使用量と水使用量が大幅に増加していました。基本的な使用量の増加となり、今後も削減できるものではありません。環境経営目標のガス使用量の維持、水使用量の削減項目については、目標値の見直しを検討してください。

### ● その他の環境経営システムの要素

変更の必要性：無し

代表取締役 久留須 智子



共栄環境開発株式会社  
令和3年度 環境経営レポート